

# 第19回 河川生態学術研究発表会

河川・海岸グループ 研究員 池田有希

## 1. はじめに

平成28年11月1日に浜離宮朝日ホール（東京都中央区）にて、「第19回河川生態学術研究発表会」を開催しました。

本研究発表会は、生態学と河川工学の研究者が連携して生態学的な観点より河川を理解し、川のあるべき姿を探ることを目的とした先進的な研究成果を発表・議論することを目的とし、河川生態学術研究会と応用生態工学会の共催で、平成10年度より毎年開催しています。

河川生態学術研究会では、現在、個別河川をフィールドとした4つの研究グループと、各研究グループの研究成果を全国的な視点で横断的に分析・整理する河川総合研究グループが研究を実施しています。

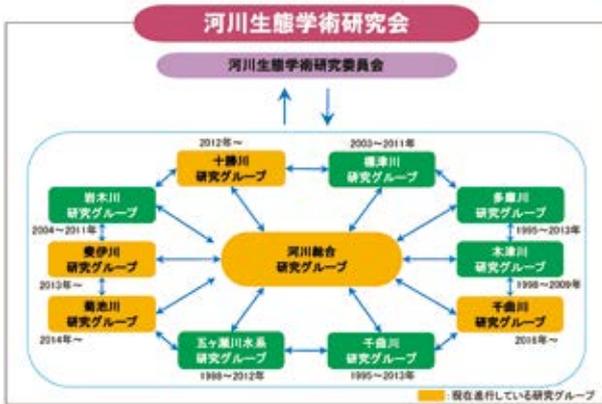


図 河川生態学術研究会の実施体制

## 2. 発表会の内容

河川生態学術研究発表会は、(1) 口頭発表、(2) ポスター発表、(3) 総合討論で構成されています。

### (1) 口頭発表

口頭発表では、各研究グループより研究概要と最新の研究成果の報告が行われました。

<p><b>1. 千曲川研究グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千曲川研究グループの研究計画とその目指すところ 平林公男 代表</li> <li>瀬淵ユニットにおける二次生産把握のための河川版コンパートメントモデルの概要とその可能性 傳田正利（国開）土木研究所 主任研究員</li> </ul>
<p><b>2. 菊池川研究グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概要説明 島谷幸宏 代表</li> <li>菊池川水系の地質構造と溪流域の地形 池見洋明（九州大学大学院 助教）</li> <li>菊池川水系溪流域の地質と河川間隙水域の環境 笠原玉青（九州大学大学院 准教授）</li> </ul>
<p><b>3. 斐伊川研究グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概要説明 山室真澄 代表</li> <li>宍道湖における環境・生態シミュレーションモデルについて 井上徹教（国開）港湾空港技術研究所海洋環境情報研究グループ長</li> <li>汽水湖特有の現象を利用した宍道湖湖水の化学的評価 菅原庄吾（島根大学大学院 助教）</li> </ul>

### 4. 十勝川研究グループ

- 河川景観ネットワークの連結性と時空間変化  
ー湧水と氾濫原の変化が生物群集に与える影響に注目してー  
中村太士 代表
- 水文過程の異なる平野河川における生物プロセスの多様性  
根岸淳二郎（北海道大学大学院 准教授）

### 5. 河川総合研究グループ

- 国土スケールにおける河川地形、水位・流量の時空間特性  
萱場祐一 代表

## (2) ポスター発表

各研究グループより7件のポスター発表が行われ、次の3名が最優秀ポスター賞を受賞しました。

- 「河道の分岐特性を利用した札内川ダムの中規模フラッシュ放流による礫河原再生の試み」  
（国開）土木研究所 寒地土木研究所 川村里実氏
- 「扇状地河川河畔域に対する水域餌資源の供給場所特定」北海道大学大学院 渡辺のぞみ氏
- 「千曲川中流域における水生昆虫類の二次生産量の推定」信州大学大学院 岡田峻典氏

## (3) 総合討論

各研究グループの成果発表を踏まえた総合討論を行い、会場の聴講者との意見交換を行いました。

- コーディネーター：島谷 幸宏
- パネリスト：中村 太士，山室 真澄，平林 公男，萱場 祐一，江崎 保男（敬称略）

総合討論では、「全国の河川の類型化」や「各研究グループの研究手法や研究展開」、「生態系と気候変動、防災との関係」等の多くのテーマについて、会場も参加した議論が交わされました。



図 研究発表会の開催状況  
（上：総合討論、下：ポスター発表）

## 3. おわりに

今年度の参加者アンケートでいただいた意見を、来年度の発表会の内容や運営に活かしていきたいと考えております。来年度も秋ごろに開催予定ですので、ご興味のある方はぜひご参加ください。